

今度の四川省の大地震ではいろいろな中国語及び日本語の単語等で混乱される可能性があり、情報として次のような比較表を提出いたします。どうぞ、お使いください。

2008年5月22日

近畿大学工学部 薛松濤

神戸大学工学部 孫玉平

1、震源地の地震の大きさ 日本名： マグニチュード 中国名： 震級

2、各地点の揺れの強さ 日本名： 震度 中国名： 烈度

日本の震度と中国の烈度の比較：

現行： 日本（1996年） 気象庁 震度 10等分

なお、日本の震度と加速度の直接対応表が発表されてなく、下記のは旧対応表及びいくつかの参考書から割り出したデータである。

1949年に日本気象庁よりのデータ（単位：cm/s<sup>2</sup>）

0-0.8 = 震度 0

0.8-2.5 = 震度 1

2.5-8 = 震度 2

8-25 = 震度 3

25-80 = 震度 4

80-250 = 震度 5

250-400 = 震度 6

400- = 震度 7

なお、1994年9月に出された「建築物の構造規定」（By 日本建築センター）より：

中地震 = 震度 5 = 80-100 cm/s<sup>2</sup>

大地震 = 震度 6 - 7 = 300-400 cm/s<sup>2</sup>

との見解。

中国（1980年制定）烈度 12等分 なお、速度と地盤加速度と烈度の対応は次である。

2-5 cm/s = 22-45 cm/s<sup>2</sup> = 烈度 5

5-10 cm/s = 45-90 cm/s<sup>2</sup> = 烈度 6

10-19 cm/s = 90-178 cm/s<sup>2</sup> = 烈度 7

19-36 cm/s = 178-354 cm/s<sup>2</sup> = 烈度 8

36-72 cm/s=354-708 cm/s<sup>2</sup>=烈度 9

72-141 cm/s=708-1414 cm/s<sup>2</sup>=烈度 10

烈度 11、12 に対応する速度及び加速度はない。

### 3、汶川県について

3.1 汶川県は中国の基準では烈度 7、かつ第 1 組と設定されている。

3.2 設計用地震加速度=0.1g。

3.3 仮に第 1 種地盤の場合：Tg=0.25s

### 4、今回の地震の汶川県での烈度の予測

「前回の 1976 年の唐山大地震（唐山地震でははじめは烈度 10 とされたが、その後、11 に訂正）を超えていると思われる。少なくとも、烈度 10 は超えている」と中国地震局 張国民先生が言っている。（薛が直接電話）。

以上